



一般社団法人
日本看護研究学会

ニュースレター

第 9 号

2023年12月15日 発行

編集発行

日 本 看 護 研 究 学 会

(事務局)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋2丁目39-2-401

株式会社ガリレオ 学会業務情報化センター内

一般社団法人日本看護研究学会 事務局

TEL : 03-3982-2030 (直通)

FAX : 03-5981-9852

主な記事

理事長より / 総会報告 / 50周年記念事業 / 学術集会情報
委員会からのお知らせ / 地方会からのお知らせ / 編集後記

理事長より

一般社団法人 日本看護研究学会
理事長 浅 野 みどり



連日のパレスチナ自治区ガザへの空爆、とくに多くの患者や避難民が身を寄せている病院への攻撃などの報道には胸がつぶれる思いです。ウクライナ侵攻の問題も解決しないまま長期化しており、国際人道法・国際人権法の順守すらなされない国際的問題解決の難しさにいたたまれない思いです。

さて、ニュースレター第9号では、とくに3点でお伝えしたいことがございます。

まず、1つ目は前回のニュースレターで予告しておりましたように、「Nursing Innovation Seeds基金（以下、Seeds基金）」の募集を10月10日より開始いたしました。Seeds基金は個人ではなく研究チームとして取り組む、a. 臨床の研究者とアカデミアとの連携した看護実践研究、b. 看護教育改革／次世代の看護師育成に関する研究に対して、最大3年間を目途に研究資金を継続的に助成し、支援しようとするものです。学会ホームページに掲載しておりますので、詳しくはこちらをご確認ください。

2つ目は、会員のみなさまに周知いたしましたように、オンライン投票システムにて評議員選挙（投票期間：2023年11月1日～11月30日）を実施いたしました。今回選出される評議員の任期は、「2024年定時社員総会の日から2028年定時社員総会の前日まで」とな

ります。Activeにご活躍いただくことを期待しております。

第3点目は、日本看護研究学会50周年記念事業についてです。現在、WG委員長として副理事長の安藤詳子先生を中心に、WGメンバーのみなさまが着々と準備を進めてくださっています。先日、第50回学術集会（学術集会長 上野栄一先生、会期：2024年8月24日～25日）のホームページも公開されました。JSNR50周年記念事業50周年記念座談会なども予定されていますので、ぜひアクセスいただきプログラムなどをご確認ください。会員のみなさまと第50回学術集会で直接お目にかかれることを今から楽しみにしています。

最後に、今年は秋になっても長い長い夏の様な気候でしたが、それから一転して、11月中旬から急に寒くなってまいりました。今年はインフルエンザの流行する時期も早く10月よりも前から各地で学級閉鎖などのニュースも耳にしました。みなさま体調など崩されていらっしゃるかもしれませんでしょうか？ これからますます寒さ厳しい時期となりますので、どうぞくれぐれもご自愛ください。

2023年12月

総会報告

2023年度定時社員総会報告

総務担当 前田ひとみ 矢野理香

2023年度定時社員総会は6月25日(日)11:00~12:00に本会事務局会議室において開催されました。COVID-19感染拡大防止の観点から、昨年度に引き続き、すべての審議事項は、社員の皆様からの書面表決・委任状の提出による決議とさせていただきました。

本会事務局の浅野みどり理事長、Web参加の安藤詳子副理事長、前田ひとみ副理事長、矢野理香総務担当理事の陪席により、会議が進められました。

最初に浅野理事長より、総社員数139名中書面表決が40名、委任状が82名、計122名の出席者数であり、定款第27条の規定により、出席した社員の議決権の過半数(特別決議においては総社員の2/3以上)をもって議決することが宣言されました。その後、2023年度定時社員総会資料にそって、書面表決の集計結果が確認されました。

報告事項としては、会員数の動向、第49回・第50回学術集会の進捗状況、各地方会の活動報告がありました。社員から、会員数の動向に対し新入会者より退会者が多いことを危惧する意見や関東圏では地方会の特徴が出せていないことについての意見がありました。

審議事項としては、2022年度事業報告、一般会計・特別会計決算報告、監査報告、2022年度学会賞・奨励賞候補者、選挙管理委員会委員の選出、名誉会員の推

薦、Nursing Innovation Seeds基金規程の制定がありました。社員からの書面によって寄せられた意見・質問はなく、すべて出席者の過半数の賛成が得られたことから、承認されました。

2022年度学会賞は加藤まり氏、奨励賞は平塚克洋氏、北島洋子氏・細田泰子氏、中畑ひとみ氏・門間晶子氏、尾崎伊都子氏、森田公美子氏・近藤真紀子氏、大橋佳代氏・稲垣美智子氏・多崎恵子氏・堀口智美氏の5論文が受賞となりました。また、名誉会員として、深井喜代子氏(岡山大学名誉教授)と宮腰由紀子氏(広島大学名誉教授・日本福祉大学名誉教授)を会員総会に推薦し、承認されました。

『Nursing Innovation Seeds 基金』は、これまで将来構想委員会が学会のミッションや特徴を明確化し、本学会の魅力アップにつながる事業支援として検討してきたものです。「看護学全体を包含する日本看護研究学会として、社会の多様なニーズや課題解決につながる融合研究、国際共同研究への発展が期待されるseedsや活動を支援すること」を目的とした本基金が新たな事業として承認され、今年度の募集を10月10日から開始しました。会員の皆さまには積極的にご活用いただけますよう何卒よろしくお願いいたします。

50周年記念事業

日本看護研究学会50周年記念事業 準備進捗状況のご報告

50周年記念事業ワーキンググループ

委員長 安藤 詳子

12月を迎え、本格的に寒さも到来しました。さて、本学会の50周年記念事業につきまして、第8号ニュースレターでお知らせしましたが、その後の進捗状況につきまして、ご報告いたします。

第49回学術集会(2023年8月20日)では、委員会企画として「JSNR50周年記念事業キックオフミーティ

ング」を開催しました。ワーキンググループメンバーから計画について発表し、参加者の皆さんとライブで話し合うことができました。そして、予定通り、ホームページに記念事業のコーナーを設置し、ロゴマークも公表いたしました。50周年に相応しく、パッと明るく花が咲いた美しいロゴマークです。現在、このロゴ

マークを用いた記念品も検討しているところです。

50周年記念事業は、記念行事と記念誌作成という大きく2つの企画を計画中です。

まず、50周年記念行事として、第50回学術集会(2024年8月24日-25日; 奈良県コンベンションセンター)において、一つに50周年記念座談会を企画します。この秋11月8日には、座談会にご登壇いただく山口桂子先生、工藤せい子先生、深井喜代子先生、佐藤正美先生、吉永尚紀先生と、座長を担当する浅野理事長、安藤副理事長、そして、ワーキング担当の勝山委員や木下委員の参加でZoomミーティングを開催し打ち合わせました。学会発足当時の話題、事務局の変遷、法人化を進めた頃、学会の方向性について検討を要した時期、そして、最近における新しい取り組みなど、大変に盛り上がり、看護を主軸に学際的に活動してきた本会の歴史を振り返りました。座談会当日の進行について、各々の役割を確認しつつ、およそのス

トーリーをイメージしました。

さらに、50周年記念祝賀懇親会の開催について、ワーキング担当の山田委員、第50回学術集会大会長を担当される上野栄一先生はじめ、実行委員の皆さまと、第50回学術集会初日2024年8月24日の夕刻の具体的なプランの検討を始めました。

そして、50周年記念誌については、当初の予定通り、電子媒体による作成とし、ワーキング担当の村上委員を中心に、歴代理事長・歴代学術集会長・歴代編集委員長等に祝原稿の依頼、学会賞及び奨励賞受賞者からの受賞後の研究活動状況レポートの依頼などを開始しました。会員の皆さまの中に、依頼メール等を受信される方々があると思いますので、どうか、ご快諾いただきたく宜しくお願い申し上げます。よりよい事業となるよう皆様からのご意見等も承りたく、お待ちしております。

学術集会情報

第49回学術集会を終えて

一般社団法人 日本看護研究学会
第49回学術集会会長 叶 谷 由 佳
(横浜市立大学医学部看護学科老年看護学領域 教授)



第49回学術集会は、2023年8月19、20日にオンラインにて、9月30日までオンデマンドで開催し、無事終了いたしました。最終的に1,200名以上の方にご参加いただき盛況に終えることができました。ご参加いただいた皆様やご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

本学術集会準備していた頃は、長く続いたコロナ禍で様々な困難も経験しましたが、オンライン化もすすみました。それらの経験を活かし、本学術集会は完全オンライン開催といたしました。学術集会を完全オンラインとしたので、企画委員会も最初からオンラインとしました。その結果、企画委員の依頼は地域を考える必要がなくなり、本学会の特徴である地方会の代表者に企画委員に参加いただき尽力いただきました。その他、広い地域から多くの企画委員に参加いただきました。学術集会のテーマは新しい学術集会のあり方を検討することと第50回学術集会につなげることも意図し、「看護の可能性の探究」というテーマとしました。企画委員会で看護学から他分野への発信や他分野との融合で新たな研究を創造するのに役立つプログラムを

検討し、特別講演、教育講演3題、研究方法セミナー3題、シンポジウム3題、特別企画2題でプログラムを構成しました。日本薬理学会、日本生理人類学会、看護理工学会などの他学会との共催やジョイントでの企画も多く取り入れました。「ライフキネティックで全ての人の脳をより機能的に」という市民公開講座も開催しました。その他、交流集会は7題、口演84題、示説145題が発表されました。私自身、オンライン、オンデマンドでほぼ全プログラムを視聴することができ、非常に視野が広がりました。

新たな学術集会のあり方も検討したいという思いもあり、メタバースによる学術集会開催が実現できました。参加者アンケートより、操作が分からなかった等、ご迷惑をおかけした方もいましたが、メタバースの機能を上手に活用して参加くださった方も多数いたことが分かりました。本学術集会開催にあたって、御協力いただいた事務局、企画委員、実行委員、ご参加いただいた皆様、協賛いただいた皆様に改めて御礼申し上げます。本学術集会が今後の皆様のご活動の発展に寄与できることを祈念します。

第50回学術集会集会に向けて



一般社団法人 日本看護研究学会
第50回学術集会会長 上野 栄一
(奈良学園大学保健医療学部 学部長)

一般社団法人日本看護研究学会第50回学術集会会長をつとめます上野栄一（奈良学園大学）と申します。学術集会についてご案内させていただきます。本学術集会は、令和6年8月24日（土）と25日（日）に奈良県コンベンションセンターで開催をいたします。

日本看護研究学会は、1970年、教育学部特別教科（看護）教員養成課程を持つ熊本・徳島・千葉・弘前の4国立大学で連絡協議会を発足し、1975年に第1回四大学看護学研究会開催（於徳島大学）された歴史のある学会です。1981年には、学会名称を日本看護研究学会とし、年1回の学術集会、年間5号の学会誌発行、5つの地方会での研究活動等、継続して看護学研究者の活動の場を提供し、研究成果の公表、および研究者の交流に貢献してまいりました。日本看護研究学会は、「本学会は広く看護学の研究者を組織し、看護学の教育、研究および進歩発展に寄与することを目的に発足いたしました。また、本学会は、学術集会の開催、学術講演会の開催、学会誌の発行、奨学会事業、学会賞・奨励賞事業、研究倫理に関する啓発事業、国際活動推進事業、公開講座等の社会貢献事業、関係学術団体との連絡、提携を基本事業とし、目的達成を目

指しております（日本看護研究学会ホームページより）」とあるように、日本の看護研究の発展に大きな貢献をしてまいりました。

さて、奈良県は、日本のほぼ中央部に位置し、大阪府・京都府・和歌山県・三重県に囲まれています。奈良は、古（いにしえ）の栄華の残り香がロマンをかきたてます。「古都奈良の文化財」としてユネスコの世界遺産に登録されるなど、素晴らしい国宝建造物の宝庫です。東大寺、忍性（鎌倉時代：ハンセン病患者などの救済に尽力した）、鑑真（奈良時代：悲田院を設立、漢方医学の伝授、唐招提寺を建立）などが活躍した看護の原点となるケアがありました。また奈良は古から国際交流も盛んでシルクロードを通して、紀元前2世紀から15世紀半ばまで活躍したユーラシア大陸の交易路網でもあり、紀元前2世紀から18世紀に東西の多くの交易品や文化などが行き来したところでもあります。国宝、世界文化財など名所名跡も多くあり、文化にもふれていただければと思います。

現在企画委員一同、準備を進めております。

皆様のご参加をこころよりお待ち申し上げます。



基調講演、カルテットランチタイムコンサート、JSNR50周年記念座談会「一古きを訪ねて新時代を拓く」、講演、特別企画若手研究、ランチタイム演奏、シンポジウム、特別講演、一般演題、交流集会、ランチョンセミナー、学会企画などを企画し、また、音楽演奏会を取り入れた企画もあります。なお、50周年記念祝賀懇親会を企画しております。詳細な内容は今後ホームページにアップしてまいります。

委員会からのお知らせ

■英文誌編集委員会より

『*Journal of International Nursing Research (JINR)*』における質の高い論文査読に対して、その功績を称えることを目的とし、Outstanding Reviewer Awardsの制度を新設しています。2023年は、4名の受賞者を表彰いたしました。また、2024年から、日本看護研究学会学会賞・奨励賞がJINRに掲載された論文も対象になる予定です。JINRへの投稿論文数も順調に増え、2023年からは年2号の発行になり、PubMedへの掲載の準備も進んでいます。査読と投稿の両面からJINRへの支援をお願いします。

■研究倫理委員会より

研究倫理委員会では第49回学術集会交流集会において新潟大学教授の宮坂道夫先生に「看護研究の倫理—研究者のマナー」と題し、研究倫理の基本的なことから、会員の皆様からいただいた研究倫理に関する疑問に対する回答を含め丁寧に解説していただきました。交流集会では、多くの会員の皆様にご参加いただきありがとうございました。日々の研究活動に活かしていただければ幸いです。

この交流集会に先立ち実施した看護研究の倫理について日頃感じている疑問などに関するアンケートにご協力くださった会員の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。

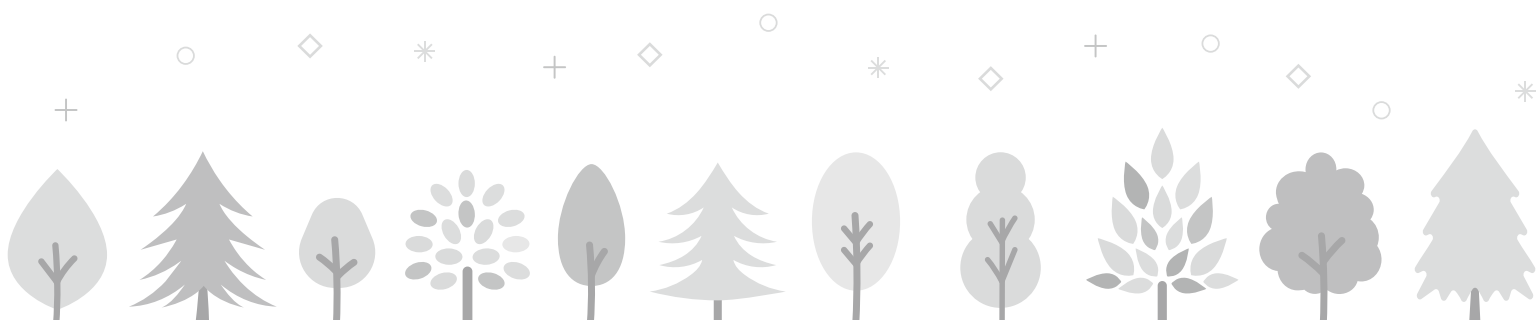
■国際活動推進委員会より

第49回看護研究学会で、本委員会企画として、交流セッションを行いました。

- (1) 2022年実施の本学会会員を対象とした国際活動に関する実態調査の結果を報告しました。過去10年間に、海外学会に参加した経験がない、あるいは英語論文の投稿の経験がない人にとって、国際活動の阻害要因となる最も多い理由は、「英語の自信のなさ」でした。Non-nativeにとっては、学術活動において英語が大きな障壁になっているという報告 (Amano T, et al., 2023) もあり、本委員会の活動がますます期待されています。
- (2) 本委員会へのニーズに応じて、英語で論文を書く時に求められている英文抄録の書き方を、英文の実例に基づき、どうすればよりよい英文になるのかを限られた時間ですが、検討しました。英語も日本語も堪能なクローバ・グラスゴー先生 (群馬大学大学院保健学研究科慢性看護学講座・外国人研究者) にもご参加いただき、英語での文の組み立て時に、相手にどのように伝わるかのコツも学ぶことができました。

参加していただいた方による感想では、今回の企画に興味を持てただけしたこと、英語の障壁が最近の様々なツールでなくなっているというご意見、英語の論文が読めることで、知識の世界が広がると思う、などのご意見をいただきました。

今後も、会員のニーズにあった活動を推進していく所存です。



地方会からのお知らせ

■東海地方会

【第28回東海地方会学術集会のご案内】

テーマ：研究が拓く看護技術の可能性

会 期：2024年3月9日（土）

会 場：オンライン開催

一般演題募集期間：2024年1月19日（金）まで

参加申し込み期間：2024年2月16日（金）まで

詳細は、東海地方会ウェブサイト（<https://www.jsnr.or.jp/district/tokai/>）にてご確認ください。

■近畿・北陸地方会

【第37回近畿・北陸地方会学術集会のご案内】

2024年3月16日（土）に「実践を支える看護研究—不確かな時代をしなやかに生きる—」をテーマに、敦賀市立看護大学で対面開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。なお、当日は、北陸新幹線敦賀延伸の祝賀日と重なります。

一般演題募集期間：2024年1月12日（金）まで延長しました

参加申し込み期間：2024年2月16日（金）まで

詳細は、近畿・北陸地方会ウェブサイト（<https://www.jsnr.or.jp/district/kinki-hokuriku/>）にてご確認ください。

【近畿・北陸地方会世話人代表選挙について】

今年度世話人代表選挙が実施されています。投票権のある会員は、投票をお願いします。

■中国・四国地方会

【第36回中国・四国地方会学術集会のご案内】

テーマ：未来社会に向かう看護研究

会 期：2024年3月17日（日）

会 場：島根大学医学部看護学科棟

参加申し込み期間：2024年1月31日（水）まで

詳細は、中国・四国地方会ウェブサイト（<https://www.jsnr.or.jp/district/chugoku-shikoku/>）にてご確認ください。

— 編集後記 —

ニュースレター2023年第9号を皆様にお届けいたします。

今年は5月から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類に移行しこれまでの規制が緩和されました。経済や社会がコロナ前の日常に戻ろうとする一方で、コロナとの共生に模索もあったと思います。また、世界的に心が痛む報道がなされています。

2024年は「甲辰」です。「甲」は十干の始まりにあたり、生命や物事の始まりを意味し、「辰」は草木が伸長し、形が整い、活気にあふれている様子を表すそうです。

皆様にとって2024年が明るい年となりますことを祈念いたします。

（広報委員会）